

## 生月島の墓制

— 石組墓を中心に —\*

野村俊之<sup>\*\*\*</sup>、加藤久雄<sup>\*\*</sup>

The traditional tomb system of Ikitsuki island, Nagasaki

Toshiyuki NOMURA<sup>\*\*\*</sup>, Hisao KATO<sup>\*\*</sup>

キーワード：石組墓、生月島、伝統的墓制、潜伏キリシタン

### はじめに

五島市福江島に所在する旧木の口墓所調査に関連し、潜伏キリシタンの墓制を比較するため福江島の潜伏キリシタンを巡検し、昨年度の紀要（加藤・野村2016）でその一部を報告した。本年度は昨年から継続して外海地区と、生月島及び平戸の墓所を巡りその実態を調査した。本稿ではこの内に生月島の墓制を石組墓を中心に報告する。

### 1. ガスパル様（西玄可）墓と井上氏墓所

生月島には、殉教したガスパル西玄可と、彼を実際に処刑した生月奉行井上右馬允信貞一族の墓所が指定史跡として存在している。

キリシタンであり生月を所領とした籠手田氏・一部氏が慶長4年（1599）信仰を守るため長崎に退去した後も、籠手田氏の生月総奉行であった西玄可は生月に残りキリシタンたちの指導にあたりつづいていた。井上は西と親交があるため棄教を勧めたがそれに応じず慶長14年（1609）処刑されている。これに対して井上はキリシタンの方法での埋葬を許可したとされている（中園2015・生涯学習講座No.077・現地案内板による）。

さて、井上氏墓所はこの一件に先んじて亡くなった井上信貞の祖父頼熙と、生月奉行となった宗円信頼の墓所である。処刑を行った井上信貞自身は承応3年（1654）平戸で没し埋葬されたとする（現地案内板による）。これらのことから当墓所はガスパル西玄可埋葬以前の仏式墓のあり方を示すと思われる。

実際には約2m四方の玄武岩と考えられる扁平な板石及び人頭大の礫を組み合わせた方形基壇が3基並び、内2基は宝篋印塔・異形宝篋印塔（笠

が火輪状を示す）を配し、残る1基は小振りな自然石1を立石として配置する。

これに対して「ガスパル様」墓はかつてクルスの辻と呼ばれた現黒瀬の辻に所在する。この地にはかつてクルス即ち十字架が立っていたともされ、ガスパル西は望んでこの地に埋葬されたとする。ガスパル他妻のウルスラそい・長男又市とともに処刑されたと伝えられることからまた、キリシタン墓地であったことから（生涯学習講座No.077・現地案内板による）数基の石積み墓が現存する。現在ガスパルの墓と伝えられるものはやや大振りな礫を1m強の範囲で無造作に積んだ略方形で墓石はない。その背後には扁平な板石を略長方形に積んだ墓もあり前述の家族墓であると推測される。更にその背後には1m弱の礫積みがある他、半壊しており基数は不明ながらももとは幾つかの石組墓と思われる単位がある。

伝承どおりとするならば、これらの石組墓は17世紀初頭のキリシタン墓のあり方と考えられる。石組み基壇を築くというあり方は、平戸藩主・家臣団墓や西彼杵半島西海市所在の小佐々氏墓でも見られ、西九州的な設えと共通するものでもある。しかし一方で厳密に見れば今回調査した生月島内墓所では殆ど見られない形態でもある。あるいは時期差がもたらしたものであろうか。

隣接する区画には現在の墓域が小規模ながら広がっている。殆どはカロウト式の家族墓に改装されているが、一部長方形の石組墓が残されている。これらをよく観察すると4基の方形石組みが連結しており、本来の単位は4基を一組としたものであることが理解できる。この墓域では墓石に「・・家之墓」「・・先祖累代墓」と刻まれており、木製供養卒塔婆が残存することから、現在では大部分が仏式墓と考えられる。しかし中には石組み基壇やコンクリート基壇上に宮型の石製又は木製

\* Received January 6, 2017

\*\* 長崎ウエスレヤン大学 現代社会学部 経済政策学科、Department of Economic Policy, Faculty of Contemporary Social Studies, Nagasaki Wesleyan University, 1212-1 Nishieida, Isahaya, Nagasaki 854-0082, Japan

\*\*\* 石造遺産調査会、長崎ウエスレヤン大学 地域総合研究所客員研究員

の構造部を配置しているものも見られる。これらは墓石というよりも基壇と地下構造を墓として祭祀空間として機能しているものであろう。また、石組墓を整理した残欠の礫群集石の中には16世紀後半から17世紀中頃を考えられる小型の五輪塔火輪部が見られ、他藩に先駆けて慶長四年（1599）に始まったキリシタン弾圧を考えれば（中園2015）、必ずしもキリシタン墓域として成立したものではない可能性も残る。

## 2. 生月島各地の墓所

### 2.1. 壱部地域前目墓所

壱部地域前目墓所は、昭和47年（1972）改装竣工した約5,900平方メートル（現地記念銘板による）に及ぶ大規模な集落墓地である。集落から海岸を見下ろす山腹の東向きに位置する。

その大部分がカロウト式墓化しており宗派や旧状はあまり把握できなかったが、墓地最上段に連結式の石組墓1基が残っている。これを観察すれば4基の方形石組墓が連結したものであることが理解される。その他コンクリートブロックを方形に組んで石組墓の代用とした例が10基程度あり、現代に至るまで墓とは墓石を伴わない方形の石組墓であるという意識を保ち続けていることがわかる。

### 2.2. 山田地区墓地

山田地区墓地は丘陵部の西向き緩斜面に位置し、カロウト式墓、石組墓のほか、僧侶墓の可能性のある無縫塔1基や、伏碑型カトリック墓が混在する。墓域は丘陵頂部を隔てて2区画が存在する。

上部構造のない石組墓は5・6基程度であるが、4基を一単位とした石組み基壇の上に戒名のある墓石を乗せるもの、木製の宮型構造物、明治年間の円形鏡型の神式墓石を乗せるものも見られ、宗教を問わず石組墓が伝統的墓制として意識されていることがわかる。また方形石組みの前にコンクリート製方形基壇上に木製十字架を立てたカトリック墓1基もあり、カトリックにおいても必ずしも伝統的墓制を排除したものではないことが理解できる。

### 2.3. 妙法院裏墓地

妙法院裏墓地は、生月観音で知られる妙法院から北西に200mほど離れた見晴らしの良い丘陵先端部に営まれる。

ここもカロウト式墓が中心であり、累代墓石、仏式墓石の他、十字架を掲げる方柱墓石やカトリックの伏碑も混在する。10基程度の4基一組となった長方形石組みがあり、そのうちの幾つかは長方形石組み基壇上に仏式の墓石を設置したものがある。ここではカトリック墓は前述の通り十字架を掲げた方柱形と伏碑に限られ、山田墓地とは異なりここでは復活期以降のカトリックが伝統的墓形態から離れたことを示したものと言ってよいだろう。

### 2.4. 法善寺墓地

法善寺墓地は、館浦地区の街路に接する法善寺西脇の急斜面に築かれている大規模な寺院墓地である。

当然のことながら一見してそれとわかるカトリック墓は存在しない。カロウト式墓の間に20基以上の連結型石組墓が散在している。中には一部がコンクリートブロック化しているものも見受けられる、注目すべきは連結石組の一端が墓石を伴わない石製カロウト式石組となっていることであり、ここでも近現代において方形の石組墓が伝統的墓制として継続されていることが理解できる。

また石組墓の中には木製卒塔婆が供えられているものがあり、少なくとも現在では仏式の祭祀が行われていることは、寺院墓地の性格からも間違いはなからう。

## 3. 生月島の石組墓

以上で見てきたとおり、生月島においては伝統的墓制として石組墓が採用されており、それは近代化したカロウト式墓への変容の中であって現在も継続している。これらは単独で存在するものもあれば、4基を一単位として連結するものもある。中園氏に伺ったところでは、連結式石組墓は端から順に遺体を埋葬し、一巡すると再度埋葬をし直すとのことである（中園 私信）。これは、平戸が狭隘な平地しかないため藩が墓の面積増大を防ぐための禁令を布いたことが背景にあるとされている（生涯学習講座No.013）。したがってこれらの石組みは継続使用され、埋葬時に一部の積替えや補修を行っているものと考えられ、どの世代まで遡れるかは別にして伝統的墓制の形態が整備を伴いながら現在に伝わっていると考えるべきであろう。

それらの中には数多くの仏式や、希少ではあるが神式の墓石を持つものがあり、少なくとも表面

上の信仰にかかわらず伝統的墓制が広く採用されたことがあげられる。それはコンクリートブロック製の石組墓や現代の輸入御影石のカロウト式墓にまで反映されている。

しかしながら潜伏期のキリシタン墓がどのような形状を示すものかは外見からは判断できない。仏式墓石が建立されているものも寺請制度の中で外見的に取り込んでいったものや、あるいはカクレキリシタンからの改宗も含まれるであろうし、逆に墓石を持たない石組墓も単に経済的理由を背景とする可能性を否定できない。特に近世前半期においては墓を建てられない人々がいたことは、墓石研究からも明らかにされている（関根・澁谷2007）。このような状況は、基本的に墓石を持たない福江島の潜伏キリシタン墓とは異なった様相を示す。

この中で17世紀初頭の伝ガスパル様墓は経年変化もあろうが礫を無造作に積み上げ方形を保たないなど多少異なった外観を示し、それはむしろ福江島の潜伏キリシタン墓に近い。同様に平戸島ウシワキの森「おろくにん様」墓も方形の石組みを単位とする近隣の根獅子墓地とも違い、現在では石祠が石組み上に祀られてはいるが人頭大の礫を略長方形に並べたものとも共通する。

最後に生月で「オイ」と呼ばれる宮型構造物（生涯学習講座No.013）についてであるが、各所で見られたこの形態は、石組墓を基壇としながら墓石を配さない墓として注目される。文字による銘がないため詳細は不明であるが、昨年度報告した福江島大泊墓所では「屋根型」トタン製構造物がカクレキリシタン墓域にのみ見られ（加藤・野村2016）、これと共通する葬送儀礼や祭祀が想定できるかもしれない。

今回、根獅子でたまたま扉が開放された宮型構造物内部を実見することができた。中には陶磁器製の灯明台・香炉・花瓶の他、木製の角盆の上に急須とコップ型湯呑、水が入った碗二膳が供えられており、別稿「潜伏キリシタン墓の数理分析の視界」で分析した墓前祭祀を考えるために参考となるところである。

## 謝辞

本研究は長崎ウエスレヤン大学地域総合研究所2016B2の補助を得て実施したものである。調査にあたっては平戸市立生月町博物館島の館学芸員の中園成生氏を訪ね、平戸の墓制や生月島の墓地の場所をご教示頂いた、記して感謝申し上げる。

## 参考文献

- 加藤久雄、野村俊之（2016）『五島列島における潜伏キリシタン墓地に関する分布の基礎的研究』、長崎ウエスレヤン大学地域総合研究所研究紀要 14-1、長崎ウエスレヤン大学地域総合研究所
- 中園成生（2015）『かくれキリシタンとは何かーオラショを巡る旅ー』弦書房
- 平戸市生月島博物館島の館 『生涯学習講座』  
<http://www.hira-shin.jp/record2/index.cgi?field=67>（閲覧日2017年1月5日）
- 関根達人・澁谷悠子（2007）『津軽の近世墓標』弘前大学人文学部文化財論ゼミナール調査報告書 VII 弘前大学人文学部文化財論ゼミナール







井上氏墓所



井上氏墓所 石組墓



井上氏墓所 宝篋印塔



井上氏墓所 異形宝篋印塔



伝ガスパル様（西玄可）石組墓



ガスパル様墓の背後にある石組墓





ガスパル様の後背地の石組墓



ガスパル様の後背地の現状



黒瀬の辻墓地



黒瀬の辻墓地 石組墓



黒瀬の辻墓地 現代のブロック石組墓



黒瀬の辻墓地 五輪塔残欠





壱部地区 前目墓地全景



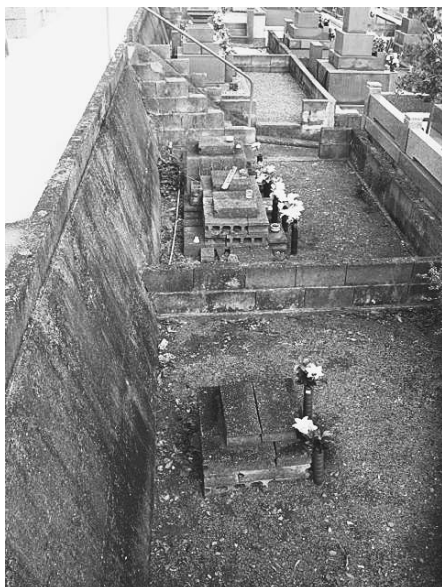
前目墓地 石積墓



前目墓地 石組墓



前目墓地 石組墓（部分）



前目墓地 現代の石組墓（ブロック）



前目墓地 宮型墓





山田地区墓地 全景



山田地区墓地 石組墓単独



山田地区墓地 石組墓・ブロック混在



山田地区墓地 カトリック墓



山田地区墓地 石組墓



山田地区墓地 石組墓上の宮型墓





山田地区墓地 カトリック墓（石組を伴う）



山田地区墓地 神式墓



妙法院裏墓地 石組墓



妙法院裏墓地 石組墓（ブロック混在）



妙法院裏墓地 石組墓・仏式



妙法院裏墓地 カトリック墓





法善寺山門



法善寺墓地 石組墓 1



法善寺墓地 石組墓 2



法善寺墓地 石組墓石製カウト混在



法善寺墓地 宮型墓



法善寺墓地 石組墓・仏式墓石





法善寺墓地 石組墓・木製卒塔婆



法善寺墓地 石製宮型墓



根獅子 石組墓連結



根獅子 石組墓単独



根獅子 宮型墓内部祭祀状況



ウシワキの森 「おろくにん様」

